

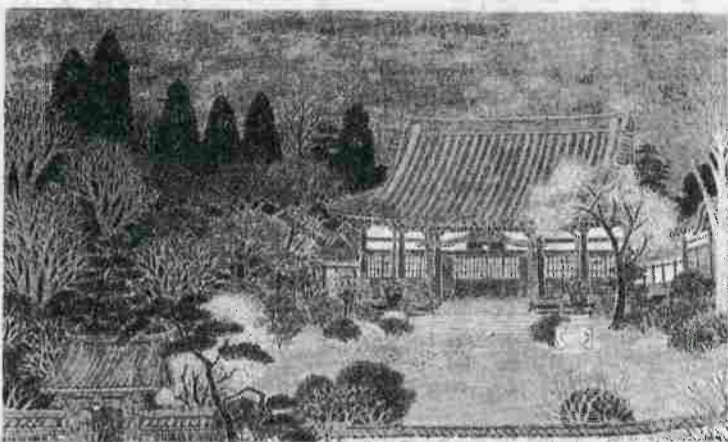
# さんぽみち



発行 わがまち大田鵜の木地区推進委員会

連絡先  
鵜の木特別出張所  
☎ 3750-4241

## 戦後五十年をふりかえって



シャゲがたくさん咲きました。野菊も好きな花の一つでした。花ではありませんが、じゅず玉もいつの間にか、なくなっていました。あれはお手玉に入れると丁度よく俵形や四枚はぎで作ったものです。

あと忘れられないのが光明寺の本堂の裏の方にオハグロトンボがいました。真っ黒で羽をひらひらさせて優雅に舞う様に飛んでいました。

最近はどこも緑がなくなって来ましたが、まだこのあたりは恵まれていると思います。できるだけ大切にしていきたいと思っています。

鵜の木一丁目 石田 宣子

布鵜の木町から南久が原に表示変更通知を受けその公聴会が区役所で開催されました。公述人として賛成三名、反対三名づつの意見陳述でした。私は賛成の意見として池上線久が原駅名の関係点を論じました。同年九月一日に南久が原の町名が誕生し施行されました。最後まで調布鵜の木町として守り残したかった人も多くいるはずで、この表示問題も私にとって忘れる事の出来ない思い出であります。(この事については創刊号に詳しく述べておきました。)

南久が原二丁目 池田 進太郎

ウーウーウー空襲警報発令、町の灯りが一斉に消えて、ラジオの報道に耳を傾ける。遠くに飛行機の音と共に爆弾や焼夷弾を落とす光がだんだん近くなり、回りはあつという間に火の海と化して、近くの人々と夢中で消し止めた忘れようにも忘れられないあの思しい戦争、多感な頃の少女が、「欲しがりません勝つまでは」と制服を作業衣に着替え、日の丸の鉢巻きで頑張っていたあの頃も遠い思い出になりました。

戦後この町に住むようになって人並みに世帯を持ち、子育てと、その子供達もこの町を故郷として巣立って行きました。

道路も年々舗装されて、道幅も広くなり、車も目まぐるしく走る時代となりました。

世の中驚く程多種多様に変りました。戦争を体験した少女も、あれよあれよと言う間にシルバートに座れるようになりました。豊かになったと言われる昨今ですが、せめて心豊かに、そして家族、地域、人の和を大切に、来る二十一世紀につなげたいものと思うこの頃です。

鵜の木三丁目 千葉 栄子

私の生まれました鵜の木下郷では、子供達の遊び場は、光明寺境内をはじめ門前から今は交差点になつているあたりまでで本当に大勢集まって、放課後から夕暮までそれはそれは賑やかでした。その様な声も聞こえなくなり、見かけなくなつた花なども少し書いてみたいと思います。早春に光明寺の上墓には大木のこぶしが咲きました。つくしやレンゲ草、クローバーには四ツ葉、五ツ葉、六ツ葉もありました。オオイヌノフグリもきれいでした。乱暴に取ると花がポロリと落ちて悲しくなつたものです。

夏にはオレンジ色の野甘草や、ホタルブクロが咲き、お彼岸を知らせてくれる様に真赤なマンジュ

蒲田女塚町にて空襲で家を焼かれ昭和二十年五月、現在地に参りました。当時の久が原駅改札口前には立派な桜の木、コンクリートで円形の交番、そして木造二階建の東調布第三小学校には近衛師団の兵隊さんが銃をもって警戒しておりました。その頃は畑も多く、道路も砂利道でした。鵜の木特別出張所も八幡神社境内にありました。文化国家建設を合言葉に復興への道を歩んで行きます。東三小学校も鉄筋三階建てになり「僕は土建業校長ですよ。」と今は亡き福田校長の言葉が印象に残っております。昭和四十三年四月住居表示変更の要請が行政から示され調



ボーイングB29爆撃機



# わがまち

## 我が青春の「駅伝」

私の青春時代は、大森七中から中大杉並高、中央大学と駅伝競争に明けぬ毎日でした。  
七中時代は、東京都中学校駅伝個人部の部で大会新記録をマーク、大田区駅伝では中学の部でチーム優勝、高校は全国高校駅伝に都代表として三年連続出場を果たしたことが大きな励みとなりました。  
当時の中大は、新春の東京一箱



中大杉並高時代

## 平成今昔ものがたり

鶺鴒の木という地名は古く五百年以上も前の記録にあるそうです。昔、光明寺周辺の山は巨木が茂り大きな森でした。その森に沢山の鶺鴒の鳥が巣を作り鶺鴒の森といわれ、村の名を鶺鴒の木というようになったと、昔からの言い伝えを土地の古老千葉原峯蔵翁「明治十六年出生昭和二十七年没」から直接伺った事があります。又翁の少年時代、村の子供達は光明寺の山へ魚拾い

# 有名人

千鳥二丁目 保莉 一興

根往復大学駅伝競争で未踏の五連覇を賭ける、駅伝史上最強と言われた陸上部に入部。しかし全国の強い選手が集まる中では、二班の弱い部類に入っていました。一生懸命練習に励み、夏の合宿ごろから、一班に昇格し、新人ながら第三十九回の箱根往復駅伝の一区東京一箱見聞に、エントリーされ大変嬉しく練習に張り切りすぎ、アキレス腱を痛め無念のリタイア。その後、足の故障が癒えず、我が青春の駅伝競技に終止符。競い合った当時の先輩や同級生が指導者として、テレビや新聞で活躍している様子が目に入り大変懐かしく嬉しい想いです。  
今は、仕事に追われて、忙しい毎日ですが、何か子供達を集めて、正しい走り方、楽しく走ることを教えながら、地域の人々と関わっていきける夢を描いております。

南久が原二丁目 岩本 宝造

に行ったそうです。夕方魚を捕って巣に戻った鶺鴒を大きな音で驚かせ、口から落した魚を拾って来たのだそうです。嘘のような話ですが事実だそうです。明治時代ののかな挿話です。  
地名の由来は昭和十年発行松原庄之助著「大森風土記」・五十七年原田福二氏発行「鶺鴒の木回顧」にも同様の記事があり、真実だと思えます。

# さんぽしてみませんか

東京湾野鳥公園

千鳥二丁目 大森 律子

都市化が進み、自然空間が残り少なくなってきました。こうした中で環境の改善や、地域の方々の努力により、平成元年10月18日には、東京湾野鳥公園が拡張され、新たに海上公園が開園しました。



身近な公園には野鳥と、その周辺には小さな野草も見られます。春の一日シギ・チドリ類の渡りや、千鳥に遊ぶセイタカシギ・サギ類水面に遊ぶカイツブリ・バン・オオバン等に見とれてみませんか。「野鳥っていいなあ。」と心のゆとりと、新しい発見や、親睦の絆が深まるかも知れませんね。

・開園時間 午前9時～午後5時  
11月～1月は午後4時30分まで  
・休園日 毎週月曜日。その日が休日の場合は翌日が休園日。  
・交通案内 JR大森駅東口、京急平和島駅から京浜急行バス（森24、25、32、36、平和32、54）で「野鳥公園」下車

## 昔と現在を思う

南久が原二丁目 石田 昭二

旧鶺鴒の木に住んで六十有余年、昔は六郷用水も美しい川でした。裸で泳ぎ、魚、えび、又色々な水草も見る事が出来ました。趣きのある、上郷、中郷、下郷橋の三橋のある静かな処でした。私の家から景色の良い富士山が美しく見えました。

光明寺の周辺には桜並木がありましたがおもかげも薄れてしまいました。  
今では高層ビルが建ち景色を眺めると言う事もなく、世の中が段々と変わって行くでしょう。

現在は環八通りが何十年ぶりに、開通し、車の多い事、時々暴走族も通り、いづれは排気ガスで身体がおかしくなりそうです。

白梅の咲つぐ庭に歩を止む  
鶺鴒を身近に聞いて日向ぼこ  
今回は千鳥南町会の  
坂田 孝一さんです。

# リレーエッセイ

## 編集後記

戦後五十年をふりかえっての第二部をそれぞれの立場から語っていただきました。鶺鴒の木青少年委員であり私の学校の後輩でもある保刈君が、お正月恒例の大学箱根駅伝一区にエントリーされ練習に励んでいましたが残念ながらリタイアしたそうです。地域スポーツ振興のため、これからの活躍を心から期待しています。

編集長 池田進太郎

# 俳句

嫁の座を離れし一日花浄土  
山笑ふ程よき雲にくすぐられ  
花満開胸の裏まで明るうす  
鶺鴒の木二丁目 長門 洋子



鶺鴒の木特別出張所管内	
人口	男 10,694名
	女 10,872名
	計 21,566名
世帯数	10,149世帯
平成9年2月1日現在	